## 13. コホモロジー論と普遍係数定理

## 1 特異コホモロジーの定義といくつかの性質

X を位相空間, $S_q(X)$  を X の特異 q 次チェイン群とする. $S_q(X)$  の双対加群を  $S^q(X)$  とおき,特異 q 次コチェイン群とよぶ.つまり, $S^q(X)=\mathrm{Hom}(S_q(X),\mathbf{Z})$  である.コバウンダリー作用素  $\delta:S^q(X)\to S^{q+1}(X)$  が, $c\in S_{q+1}(X)$  に対して  $\langle \delta u,c\rangle=\langle u,\partial c\rangle$  を満たすように定まる. $\delta:S^q(X)\to S^{q+1}(X)$  を  $\delta_q$  で表す. $H^q(X)=\mathrm{Ker}\;\delta_q/\mathrm{Im}\;\delta_{q-1}$  とおき,これを X の q 次の特異コホモロジー群(singular cohomology group)とよぶ.コホモロジー群とホモロジー群の間には自然なペアリング

$$\langle , \rangle : H^q(X) \times H_q(X) \to \mathbf{Z}$$

が定義され,これを Kronecker 積とよぶ.

位相空間の間の連続写像  $f:X\to Y$  に対して,準同型写像  $f^\sharp:S^q(Y)\to S^q(X)$  および  $f^*:H^q(Y)\to H^q(X)$  が導かれる.ホモトピー不変性,位相空間対に対する完全系列,Mayer-Vietoris の完全列はホモロジーの場合と同様に述べられる.完全列の形は次の通りである.

$$\cdots \xrightarrow{\delta_*} H^q(X,Y) \longrightarrow H^q(Y) \xrightarrow{i^*} H^q(X) \xrightarrow{\delta^*} H^{q+1}(X,Y) \longrightarrow \cdots$$

$$\cdots \xrightarrow{\delta^*} H^q(X_1 \cup X_2) \xrightarrow{\beta^*} H^q(X_1) \oplus H^q(X_2) \xrightarrow{\alpha^*} H^q(X_1 \cap X_2) \xrightarrow{\delta^*} H^{q+1}(X_1 \cup X_2) \longrightarrow \cdots$$

## 2 カップ積

位相空間 X のコホモロジー  $H^*(X)=\oplus_q H^q(X)$  は,次のように次数環 (graded ring) の構造をもつ.コチェイン  $u\in S^p(X),\,u\in S^q(X)$  について, $u\cup v\in S^{p+q}(X)$  を  $\sigma\in S_{p+q}(X)$  に対して

$$\langle u \cup v, \sigma \rangle = \langle u, F_p \sigma \rangle \langle v, L_q \sigma \rangle$$

が満たされるように定める.ここで, $F_p\sigma$  は  $\sigma$  のはじめの p+1 個の頂点ではられる p-face,  $L_q\sigma$  は  $\sigma$  の後の q+1 個の頂点ではられる q-face を表す.これは以下の性質を持つ.

1. 連続写像  $f: X \to Y$  について,  $f^{\sharp}(u \cup v) = f^{\sharp}(u) \cup f^{\sharp}(v)$ 

2. 
$$\delta(u \cup v) = \delta u \cup v + (-1)^p u \cup \delta v$$

コチェイン u,v が ,  $\delta u=0, \delta v=0$  を満たすとき , これらのコホモロジー類 [u],[v] に対して

$$[u] \cup [v] = [u \cup v]$$

と定義する.これはコホモロジー  $H^*(X)$  に積の構造を定め,カップ積 (cup product) とよばれる. $\alpha\in H^p(X),\ \beta\in H^q(X)$  に対して  $\alpha\cup\beta=(-1)^{pq}\beta\cup\alpha$  が成立する.

## 3 普遍係数定理

アーベル群G について  $S_q(X,G)=S_q(X)\otimes G,$   $S^q(X,G)=\mathrm{Hom}(S_q(X),G)$  とおくことにより,G 係数のホモロジーとコホモロジーが定義される.

定理 1. 次の完全列が存在する.

$$0 \to H_n(X) \otimes G \to H_n(X;G) \to \operatorname{Tor}(H_{n-1}(X),G) \to 0$$

$$0 \to \operatorname{Ext}(H_{n-1}(X), G) \to H^n(X; G) \to \operatorname{Hom}(H_n(X), G) \to 0$$

これらの完全列は分解するが,一般には標準的な分解の方法があるわけではない.

一般にアーベル群 A,B に対して, $\mathrm{Tor}(A,B)$  および  $\mathrm{Ext}(A,B)$  は次のように定義される.A の自由分解 (free resolution)

$$0 \rightarrow F_1 \rightarrow F_0 \rightarrow A \rightarrow 0$$

をとる.これは完全列で, $F_0$ , $F_1$  は自由アーベル群である. $\mathrm{Tor}(A,B)$  および  $\mathrm{Ext}(A,B)$  は以下の完全列で特徴付けられる.

$$0 \to \operatorname{Tor}(A, B) \to F_1 \otimes B \to F_0 \otimes B \to A \otimes B \to 0$$

$$0 \to \operatorname{Hom}(A,B) \to \operatorname{Hom}(F_0,B) \to \operatorname{Hom}(F_1,B) \to \operatorname{Ext}(A,B) \to 0$$